SCIDマウス系における形質細胞腫発症機構の分子細胞遺伝学的研究

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2021-06-07
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 大野, 真介, Ohno, Shinsuke
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00060292

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

SCIDマウス系における形質細胞腫発症機構の分子細胞遺伝学的研究

Research Project

All

Project/Area Number	04152049
Research Category	Grant-in-Aid for Cancer Research
Allocation Type	Single-year Grants
Research Institution	Kanazawa University
Principal Investigator	**大野 眞介** 金沢大学, がん研究所, 助教授 (70019868)
Co-Investigator(Kenkyū-buntansha)	松島 綱治 金沢大学, がん研究所, 教授 (50222427) 村上 清史 金沢大学, がん研究所, 助教授 (90019878) 早川 純一郎 金沢大学, 医学部, 教授 (50110622)
Project Period (FY)	**1991 – 1992**
Project Status	Completed (Fiscal Year 1992)
Budget Amount *help	**¥2,800,000 (Direct Cost: ¥2,800,000)** Fiscal Year 1992: ¥2,800,000 (Direct Cost: ¥2,800,000)
Keywords	SCIDマウス / 形質細胞腫 / 分子細胞遺伝学

Research Abstract

本研究は、「どの分化段階にあるB細胞が形質細胞腫発症の標的細胞であるのか」を実証するために計画された。具体的には、(1)SCIDマウスを用いた形質細胞腫発症実験系の確立、および(2)抗体産生能を持つ形質細胞腫の誘発、の2点であった。当初懸念されたことは、重症複合性免疫不全マウスであるSCIDマウスで、果たして形質細胞腫誘発が可能か否かということであった。事実、多くの実験は、SCIDマウスその自体での形質細胞腫発症には成功していない。私共は、今回、ヒツジ赤血球(SRBC)ー免疫あるいは正常BALB/c6.15(第6-第15染色体間のRobertsonian転座)マウスの脾臓おらび骨髄細胞をSCIDマウスに移入することにより、形質細胞腫を誘発し得ることを見いだした。特筆すべきことは、2例(2/12)の形質細胞腫がその染色体解析によりSCID起源と同定されたことである。この知見は、形質細胞腫発症の標的細胞が、ひとつには少なくとも未成熟B細胞である可能性を強く示唆し、今後の研究遂行の上で大きな指針を与えた。目的(2)抗体産生能を持つ形質細胞腫の誘発については、現在迄のところ成功していない。SRBCー免疫BALB/c6.15マウスの脾臓中には、抗ーSRBC抗体産生および同免疫記憶細胞は存在する。事実、これらの細胞により再構成されたSCIDマウス血清中には、抗ーSRBC抗体は約3ヶ月間陽性であった。ところが、マウス脾臓細胞全体を移入した場合には、SRBC応答性細胞以外のB細胞群が圧倒的に多いためか、実験結果はnegativeであった。移入する細胞群をさらにrefineすることにより、この実験は再度組織的に計画され、実施される予定である。

Report (1 results)

1992 Annual Research Report

URL: https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-04152049/

Published: 1992-03-31 Modified: 2016-04-21